

# 「農薬の話」後編

農産部会委員 らでいっしゅぼーや農産管理課課長 横山 徹

## Message

### ■農薬と正面から向き合う

私たちはこの3年間継続的に、品目別技術交流会や土づくりの勉強会「小祝塾」を開催してきました。これらの勉強会は技術交流による青果物の品質向上、秀品率の向上を目的とするほか、農薬にたよらない栽培技術の確立を大きなテーマとしています。

「代替なき否定からは何も生まれない」。農薬はイヤイヤと後ろ向きに否定し続けても、そこからは何も新しいものは生まれず、改善ありません。継続的な研究の積み重ねこそが反農薬への具体的な道標であると確信しています。

私たちの立脚点は「Radix 環境保全型生産基準要項」の中の農産基本姿勢5原則です。らでいっしゅぼーやは今後もこの姿勢を堅持していきます。「反農薬」とは、農薬に目を背けるのではなく、正面から向き合うこと。ぜひしっかりとのおつきあいをお願いします。

### ■らでいっしゅぼーや農産管理課

「こんな病虫害なんだけど、ほかの生産者はどんな農薬を使っているのか」、「この農薬は禁止農薬ではないでしょうね?」「適用病虫害を教えてください」……。

農薬の使用を巡る様々な「問い」に正面から取り組むべく、今年から商品部の中に、新設部署として「農産管理課」を設置しました。ここでは農薬につ



農産管理課長 横山徹氏

いて真剣に、真正面から考える機会を自らづくり、生産者とともに農薬に関する勉強や研究を進めていきます

農産管理課の主な業務は農薬の管理や栄養価分析が基本となります。「病虫害防除診断データベース」や農薬関連の書籍資料類などの情報も日々充実。みなさんからのご質問になるべく多くの情報が提供できるよう整備を進め、最近は少数の生産者ですが問い合わせも増えてきました。

また皆さんの栽培管理カードの防除欄に「制限農薬」の使用が予定されているときは、代替使用が可能な(比較的安全な)農薬も積極的に紹介しています。農産管理課を農薬使用の相談窓口として、ぜひご利用ください。

### ■農薬1回、それは安全ですか?

生産者が農薬を撒布したとき、らでいっしゅぼーやにはその日付・農薬名・希釈倍率・散布量も報告していただいています。その青果物をお届けする会員さんへの報告は、農薬の種類(有・菌・虫・植)と回数表示のみとなっています。これは育苗時なのか本圃定植後なのか、開花後なのか、開花前なのか、1ヶ月前なのか、1週間前なのかかわからない表示です。

会員さんから見れば、「無農薬ではないけれど、1回しか農薬を撒布しなかったのね、だから安心できるわ」といった解釈ともなりますが、本当にその1回は安心なのでしょう。

ご存知のとおり農薬にはそれぞれ適用というものが、適用作物や散布回数、使用時期、使用方法、希釈倍数が定められています。

使用時期は収穫の何日前という表現となっていて、短いもので前日、長いもので100日(!)と、たいへん長い、すなわち危険性が高いと思われるものも



◀ 農産管理課 加川幹雄氏  
「農薬に関すること。いろいろお問合せください!」

吉田三千代氏 野菜の硝酸値をFQフレックスで簡易分析しているところ ▼



あります。また、定植前とか展葉期などの生育段階で指定されているものもあります。

### ■農薬撒布から収穫までの日数

農産管理課では、農薬は使用した者、使用させた者の責任として、通常の残留分析では「検出せず(N, D.)」になるよう、撒布から収穫までの期間を設定するべきではないかと考えます。

当然、それは作物別に農薬商品名別に検査しなければわからないことですし、ハウスや露地栽培などのように環境別に、また春夏秋冬での検査をする必要もあると思います。

農薬の適用、中でも使用時期と農薬の残留との相関はどのようになっているか? 適用が守られていれば食べ物(青果物)への残留はないのか? これらの疑問に答えを出すべく、農産管理課では現在、Radixの会の協力により、青果物への農薬の残留について、分析検査を含めた調査を少しずつ進めています。

いまのところでは、農薬の適用どおりで防除すれば残留はします。その後、何日経過すれば検出ゼロになるのかの調査もしています。次回の号にでも、検査結果を報告できればと考えています。